

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調整費

事業名 現代陶芸美術館展示費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100(内103)

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 55,208 千円 (前年度予算額： 49,434 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	49,434	10,845	0	15,653	0	0	2,000	0	20,936
要求額	55,208	18,837	0	6,636	0	0	2,035	0	27,700
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・岐阜県現代陶芸美術館の収蔵品等を多角的視点から展示(企画展)
- ・国内からの借用作品による多彩なテーマの特別展示(特別展)

(2) 事業内容

○特別展開催事業費

- ① 「リサ・ラーソン」展[巡回展]
令和6年6月8日(土)～8月25日(日)：67日間
- ② 「生誕130年 荒川豊蔵展」[自主企画]<実行委員会方式>
令和6年9月14日(土)～11月17日(日)：60日間
- ③ 「人間国宝 加藤孝造展」(仮称)[自主企画]
令和6年11月30日(土)～令和7年3月16日(日)：86日間
- ④ 「人間国宝 鈴木藏展」(仮称)[巡回展]
令和7年3月29日(土)～令和7年6月1日(日)：56日間

○企画展(コレクション展・常設展)開催事業費

- ① 「コレクション特別展」(仮称)[自主企画(コレクションによる)]
令和6年3月16日(土)～5月26日(日)
- ② 「コレクション展」第1期
・テーマ展、コレクション・ハイライト、令和4年度新収蔵作品展
令和6年4月20日(土)～6月30日(日)
- ③ 「コレクション展」第2期
・テーマ展、コレクション・ハイライト、令和5年度新収蔵作品展
令和6年7月13日(土)～9月29日(日)

- ④ 「美濃焼展」 (仮称) [国際陶磁器フェスティバル美濃 関連展示]
令和6年10月18日(金)～11月17日(日)
- ⑤ 「コレクション展」 第3期
・テーマ展、コレクション・ハイライト
令和6年11月30日(土)～令和7年3月2日(日)
- ⑥ 「コレクション展」 第4期
(内容検討中)
令和7年3月15日(土)～5月18日(日)

○準備費

- ・令和7年度以降の特別展等の準備打合せ等

○デジタル・アーカイブ

- ・所蔵作品の写真や関連資料のデジタル化

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	100	謝金
旅費	1,137	職員旅費、講師等費用弁償
消耗品費	1,964	展示用消耗品費、配布用図録費
会議費	3	講師会議費
役務費	2,117	通信運搬費
委託料	29,420	展示等業務委託料
使用料	411	会場借上料等
負担金	20,056	巡回展負担金
合計	55,208	

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

【特別展〔自主企画・巡回展〕】

令和6年度の特別展では、当館の作品収集活動に基づく展示（コレクション特別展）、ポピュラーな西洋陶芸の紹介（リサ・ラーソン展）、近現代の美濃焼の最重要作家の見直し（荒川豊蔵展）、郷土ゆかりの人間国宝の顕著（加藤孝造展）と、様々なジャンルやテーマの展覧会を計画している。

- ①「リサ・ラーソン展」
- ②「生誕130年 荒川豊蔵展」＜実行委員会方式＞
- ③「人間国宝 加藤孝造展」（仮称）
- ④「人間国宝 鈴木藏展」（仮称）
- ⑤「コレクション特別展」（仮称）

これらにより、新たな来館者層を獲得するとともに、県民の陶芸等芸術文化に関する知識・教養の向上と、県の陶磁器産業の発展に寄与する。

【企画展〔コレクション展・常設展〕】

令和6年度の企画展では、当館のコレクションに基づいて、主に3つの観点から展覧会を計画している。

- (1) テーマ展：特別展との関連や教育普及の視点などから、様々なテーマを設けて、当館のコレクションを紹介する。
- (2) コレクション・ハイライト：当館コレクションの逸品を展示するとともに、その特徴を紹介する。
- (3) 新収蔵作品展：令和4年度と令和5年度に新しく収蔵した作品をお披露目し、当館のコレクションでのその位置づけも示す。

これらの展示により、県民をはじめ多くの方々に、当館コレクションの魅力を多角的に知っていただき、陶芸文化に様々な形で親しんでいけるようにする。特にコレクション・ハイライトによって、ぶらりと立ち寄った方が、いつでも当館所蔵の名品を鑑賞できることになる。

【展覧会準備】

令和6年度中に、令和7年度以降の特別展等の準備打合せを進める。
これにより、令和7年度以降の特別展等を充実したものにす。

【デジタル・アーカイブ事業】

開館以来収集してきた所蔵作品の写真や関連資料のデジタル化を引き続き推進し、その成果に基づいて資料のデータベース化を目指す。

これによりし、資料を展覧会や教育普及等の事業に活用するとともに、当館の事業の核にあたるコレクションを広く紹介する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率
① 入館者数		28,607	33,100	34,800		122%

○指標を設定することができない場合の理由

(これまでの取組内容と成果)

令和3年度	<p>○取組内容</p> <p>【企画展】</p> <p>① Human and Animal展（巡回展） 土に吹き込まれた命 令和3年4月24日～6月20日</p> <p>② 町田市立博物館所蔵 岩田色ガラスの世界展（巡回展） —岩田藤七・久利・糸子— 令和3年7月10日～8月29日</p> <p>③ 台湾現代陶芸の力展（特別企画展） 台湾・新北市立鶯歌陶瓷博物館所蔵による 令和3年9月11日～10月31日</p> <p>【コレクション展[常設展]】</p> <p>① 「コレクション展1」 ・やきもののデザイン ・コレクション・ハイライト ・令和元年度新収蔵作品展 令和3年3月23日～令和3年7月25日</p> <p>② 「コレクション展2」 ・美濃の陶芸 ・コレクション・ハイライト ・令和2年度新収蔵作品展 令和3年8月7日～10月31日</p> <p>○成果</p> <p>【企画展】</p> <p>① 「Human and Animal」展（巡回展）は、人と動物という根源的なモチーフに土素材を通じて向き合う国内外の5作家作品で紹介した。身近ないきものを中心とした作品が多く、子どもから大人まで楽しめる展覧会で好評につき、多く美術ファン層を開拓できた。ただし、ゴールデンウィーク後は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、外出自粛ムードと重なったこともあり一時伸び悩んだ。</p> <p>② 「岩田色ガラス」展（巡回展）は、町田市立博物館のコレクションを厳選して紹介することをはじめ、当館では「岐阜県美術館所蔵 もう一人のパイオニア 各務鑛三 クリスタルガラスの世界」と銘打ち、多治見市出身の各務鑛三の作品を紹介したことで、来館者（地元）の関心をさらに高めることができた。</p> <p>③ 「台湾現代陶芸の力」展では、進化し続ける台湾現代陶芸を、台湾・新北市立鶯歌陶瓷博物館のコレクションを通じて紹介する。台湾は国際的な陶芸のコンペ展を実施しており、陶磁器については世界的に有名である。このことから、本展覧会は、今回の国際陶磁器フェスティバル美濃に合わせ、多くの集客を見込んでいる。</p> <p>【コレクション展[常設展]】</p> <p>① 「やきもののデザイン」では、当館所蔵の柱のひとつ、実用陶器コレクションから優品を展示し、当館の幅広い収集活動の一端を紹介した。日常的に使用する産業陶器名と比較想像しながら、それぞれの感じ方で、様々に思いを巡らし、作品そして作家との対話を楽しんでいただいた。</p> <p>「コレクション・ハイライト」では、収蔵作品のうちでも珠玉のものを紹介す</p>
-------	--

ることで、ぶらりと立ち寄った方でも、いつでも当館の逸品を鑑賞していただくことができた。

指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

令和4年度

○取組内容

【サテライトミュージアム】

前年度からの令和4年度9月まで設備改修工事で休館していた期間中に、当館のコレクションを県内各地の文化施設で展示した。

①「現代のオブジェが桃山の織部と響きあう!？」

土岐市美濃陶芸歴史館

令和4年5月21日(土)～8月7日(日)

②「陶磁器でめぐる世界の旅」

岐阜県図書館

令和4年6月4日(土)～7月31日(日)

③「うつわの美」

可児郷土歴史館

令和4年6月19日(土)～8月21日(日)

【特別展】

リニューアル・オープンと開館20周年を記念して、3本の特別展を開催した。

①「ロマンティック・プロGRESS」展 [自主企画]

令和4年9月17日(土)～11月13日(日)

②「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」 [巡回展]

令和4年11月26日(土)～令和5年1月29日(日)

③「超絶技巧・未来へ!」展 [巡回展]

令和5年2月11日(土)～4月9日(日)

【企画展(コレクション展・常設展)】

3種の展示会を2期にわたって開催した。

①「THE GIFT 安藤基金コレクションからー世界の陶芸」

「コレクション・ハイライト」

「令和3年度 新収蔵作品展(1)」

令和4年9月17日(土)～12月25日(日)

②「THE GIFT 安藤基金コレクションからー日本の陶芸」

「コレクション・ハイライト」

「令和3年度 新収蔵作品展(2)」

令和5年1月4日(水)～5月7日(日)

【デジタル・アーカイブ事業】

所蔵作品の写真のデジタル化を進め、「所蔵作品選」第1弾として「日本の陶芸」編を作成した。

○成果

【サテライト・ミュージアム】

県内各地で当館のコレクションをより広く紹介し、当館の知名度を上げ、県内の文化施設間の交流を進めることができた。

【特別展】

①「ロマンティック・プログレス」展

当館のコレクションと活躍中の作家の作品を組む合わせる展示を行った。

これによって、当館のコレクションの特徴と魅力を紹介しながら、陶芸専門館として現代の陶芸の現在を提示し、その優れた成果を紹介することができた。

②「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」

19世紀イギリスのジュエリーをテーブル・セッティングも交えて展示した。

陶芸に隣接するポピュラーなジャンルを紹介することによって、新しい客層を獲得することができた。

③「超絶技巧・未来へ！」展

明治工芸の超絶技巧の逸品とともに、現代の超絶技巧と言える現代美術作品を大々的に展示した。

これによって、広い層のニーズに応えることができた。

【企画展（コレクション展・常設展）】

当館のコレクションについて、寄贈による重要な作品群を紹介するとともに、その中核となる逸品を紹介し、さらに最近新たに収蔵した作品のお披露目を行った。

これによって、当館のコレクションの特徴と魅力を紹介することができた。

【デジタル・アーカイブ事業】

「収蔵作品選」第1弾を刊行することができ、当館のコレクションと事業展開を印刷物の形で広く紹介することができた。

指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	近現代の国内外の優れた陶芸文化を紹介する展示事業は、子どもや若い世代の感性を育てる教育的事業であるとともに、美術ファンを含む県民のニーズに対応する文化事業として重要である。また、地元陶磁器産業や作家等と連動し、その活性化に資する点で必要性が高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	平成14年の開館以来、多様な展示活動によって、世界の優れた陶芸を身近に鑑賞できる施設として認知されてきた。また、地域に根差した展示活動についても評価されている。さらに近年は、陶芸に隣接するジャンルである工芸各種や絵画なども陶芸に併せて紹介することに力を入れている。これらの点から、県民の多様なニーズに対応する事業展開において、成果は上がっている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	所蔵作品を特別展にも生かし、特別展の関連催事を魅力発信事業と連動させるなどして、展示事業について準備面でも予算面でも効率を高めることを図っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 展示事業の計画に対して予算が不足がちであるが、上記事業の効率化を一層工夫していく。 新型コロナウイルス感染症等への対策に関しては、令和6年度も来館者にとって安心安全な環境をつくり、魅力的な展覧会を開催できるよう臨機応変に対応する必要がある。	
---	--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

当館は、陶芸専門の美術館として、地元で根付きながら、国内外の様々な優れた陶芸作品の紹介に努めてきた。この基本的な事業展開には、良い評価を重ねてきたと言える。

近年は、陶芸を隣接ジャンルと関連付けて、広い視野から展示活動を行って欲しい、といったニーズにも応えている。

今後も当館の基本方針に基づきつつ、より斬新な視点で、県民をはじめ様々な人々の要望に応えるため、創意工夫を行っていく。

そのために、作家や作品について、情報収集と調査研究を更に進め、作品収集、展覧会事業、教育普及事業などに積極的に取り組む。さらに、地元の陶芸関係機関、陶磁器産業との連携や、国内と海外の陶芸関係機関との連携を強化していくことも重視する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	